

オギジビは金曜午前中が休診ですが、スタッフは出勤し種々の事務作業や院内装飾作りなどを行っています。1月は毎年その時間を使い、医師、看護師、事務、そして私たち言語聴覚士(ST)がそれぞれ1年間の振り返りと、新しい1年間の抱負を発表する「年頭あいさつ」を行います。一部をご紹介します。

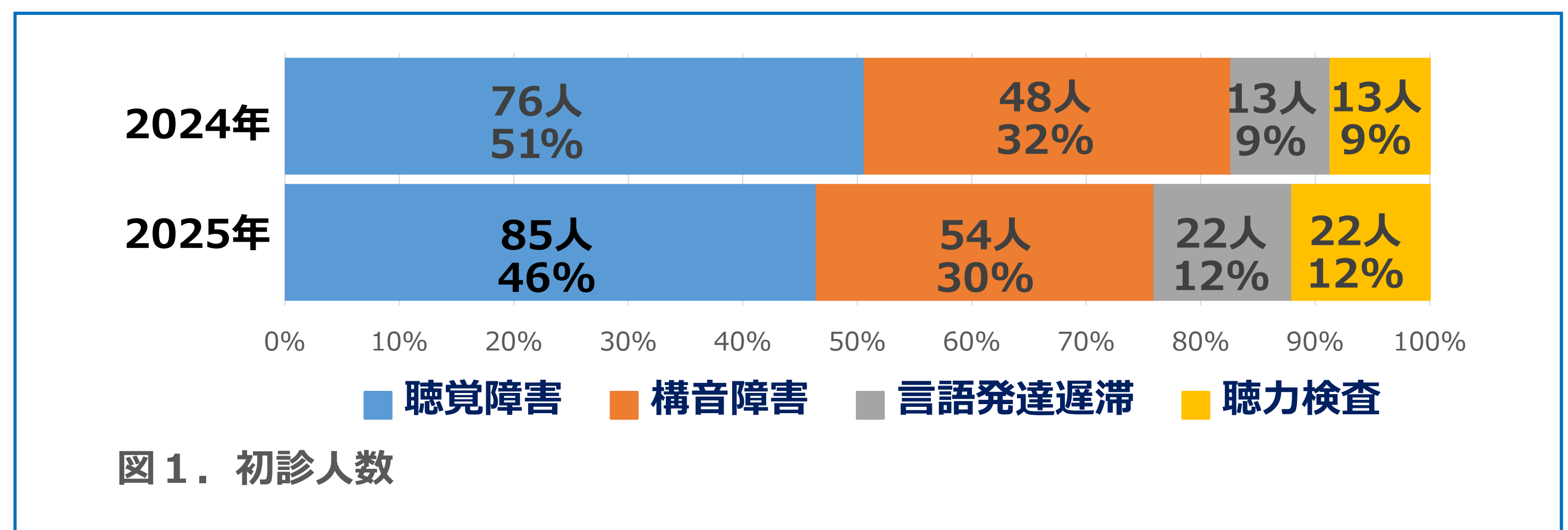
2025年振り返り



オギジビのSTが対象としているのは、以下の4つを主訴として受診された方々です。

- 聴覚障害**：聞こえが悪いため補聴器を検討、あるいは補聴器は持っているが相談したい。
- 構音障害**：“サ行が言えない”、“力行がタ行になる”など、発音の誤りを相談したい。
- 言語発達遅滞**：ことばを話さない・理解していない、ことばが増えないなどが心配。
- 聴力検査**：聞こえているか心配、他施設や市の健診で精査を勧められた。

図1は2025年の1年間にSTが初めてお会いした183人の主訴です。図内には比較のため、2024年の結果も示しています。



両年とも、約半数の主訴が**聴覚障害**、3割が**構音障害**、残りが**言語発達遅滞**と**聴力検査**で同割という結果でした。

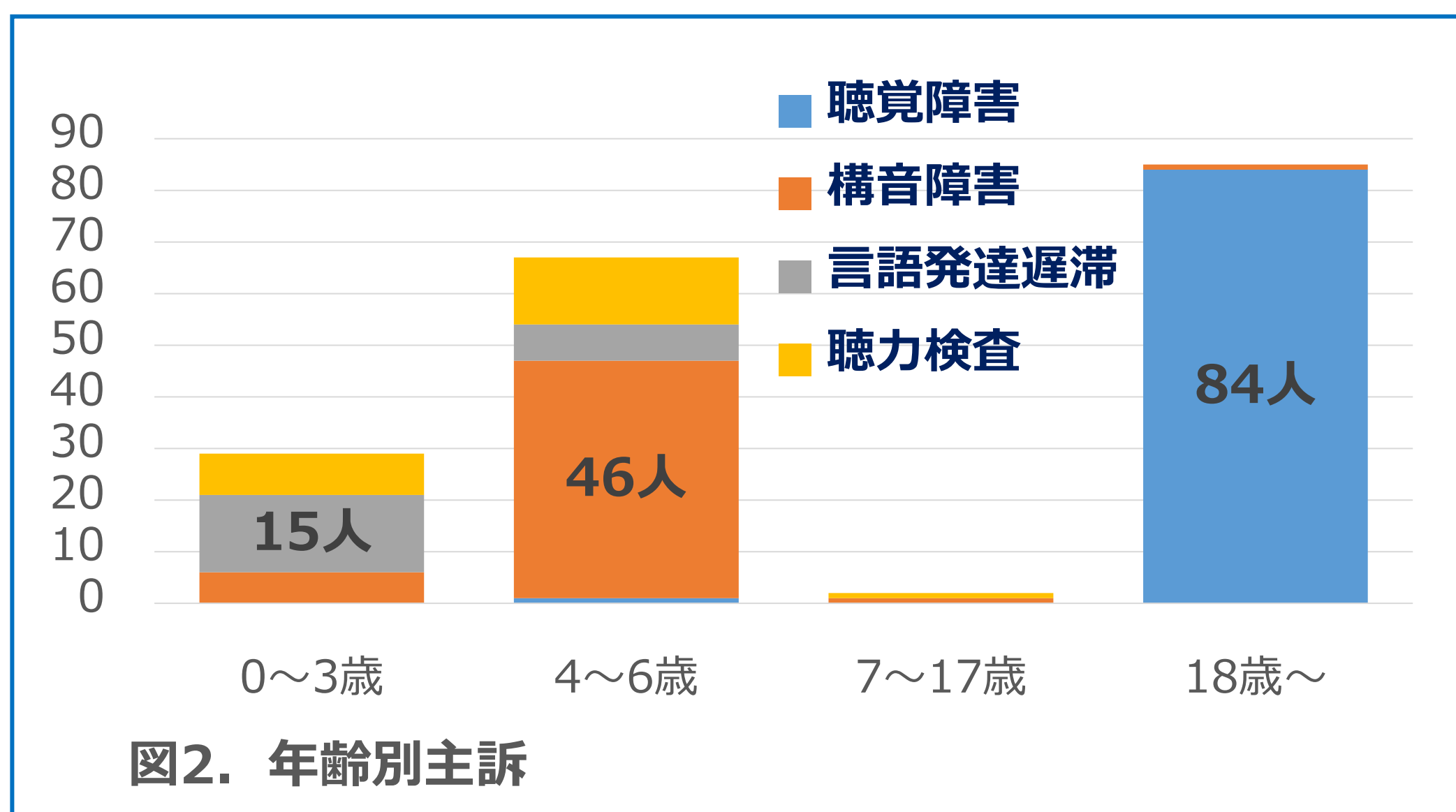


図2に初診の方々の主訴を年齢別にまとめました。オギジビでは言語訓練や構音訓練の対象を未就学児としているので、必然的に就学以降のお子さんの受診は少なくなっています。

言語発達遅滞は0～3歳が最多、**構音障害**は4～6歳が最多となっています。

補聴外来について



2025年、「聞こえにくさ」を主訴に受診された方が最多でしたので、オギジビの補聴外来についてご説明します。

「聞こえにくさ」を主訴とした方が受診されたら…

家族に耳鼻
科に行けと
言われた



最近、聞こ
えが悪い気
がする

- 聞こえの検査を実施して、**難聴の有無や程度**を調べます
- 難聴があり、補聴器が有効と分かれば、**補聴器の試聴**をします

補聴外来で行うことは？



試聴前に聞こえ、
難聴、補聴器の
説明をします

- **1～2週間ごと**に受診し、補聴器の試聴をします
- 多くの方は、**3種類程度**の補聴器を試聴します
- 自分に合った補聴器の選択には**2～3カ月**かかります

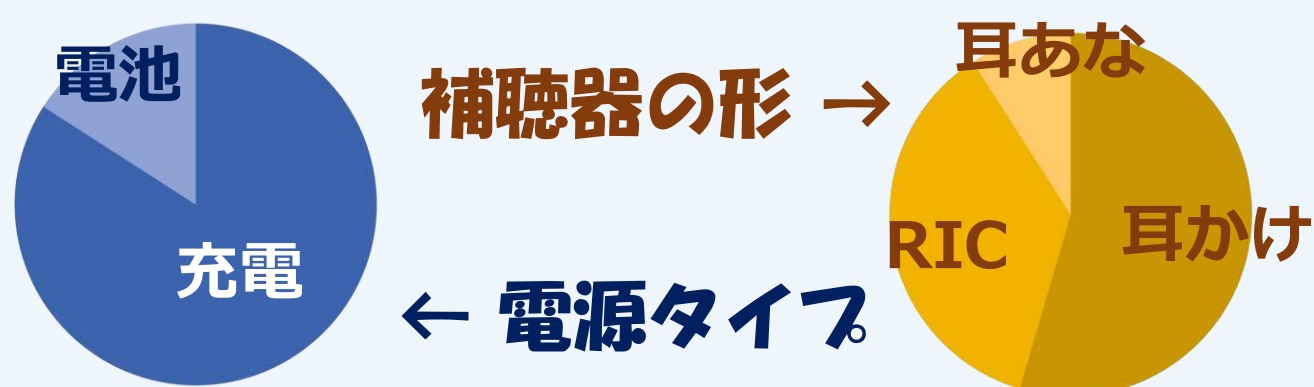
補聴外来に通うのはどのような人？



- 2025年に初めて補聴器を試した方の年齢は、**70～80代で全体の3/4**を占めました
- 難聴の程度は**約6割が中等度難聴**でした

難聴に関する調査では、40代から徐々に聞こえは悪化するという報告もあります。補聴外来でお会いする方に、受診のきっかけをうかがうと「数年前から聞こえにくさを感じていた」と話される方が少なからずいらっしゃいます。年齢変化による聞こえの悪化は改善しないと考えられます。聞こえの悪さを感じた、あるいは家族や友人に指摘されたら先延ばしにせず、まずは聴力検査を受けてみることをお勧めします。

どのような補聴器が選ばれた？



- **8割以上**の方が**充電タイプ**の補聴器を選択しました
- 充電タイプは就寝時に充電器に入れるだけで、翌日1日使用できるので、操作が簡便です
- “RIC”も耳かけ型補聴器の一種なので、**約9割**の方が**耳かけ型**を選択したことになります

オギジビの補聴外来について簡単にご紹介しました。このカスタネット通信を読んでいるのはすでに補聴器の試聴を始めている方かもしれませんが、もし皆さんの家族やご友人に聞こえについて心配されている方がいらっしゃったら、ぜひオギジビの補聴外来をご紹介ください。

個々人の聞こえに合わせた補聴器を選ぶことで、親しい人との会話やテレビの音声の聞き取りが改善すれば、生活の質が上がります！